

平成19年度日本海さば類・マイワシ・ブリ長期漁況予報

—別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果—

今後の見通し（2007年11月～2008年3月）のポイント

漁況（来遊量）

さば類（島根県～新潟県）

前年並み。

マイワシ（島根県～新潟県）

低調に推移する。

ブリ（兵庫県～新潟県）

0歳魚は前年を下回る。

1歳魚は前年を上回る。

2歳魚以上は前年を上回る。

※「前年」は2006年11月～2007年3月を示す。

問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班

担当：大隈、田中、佐藤

代表：03-3502-8111(内線 6800)、ダイヤルイン：03-6744-2377、FAX：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

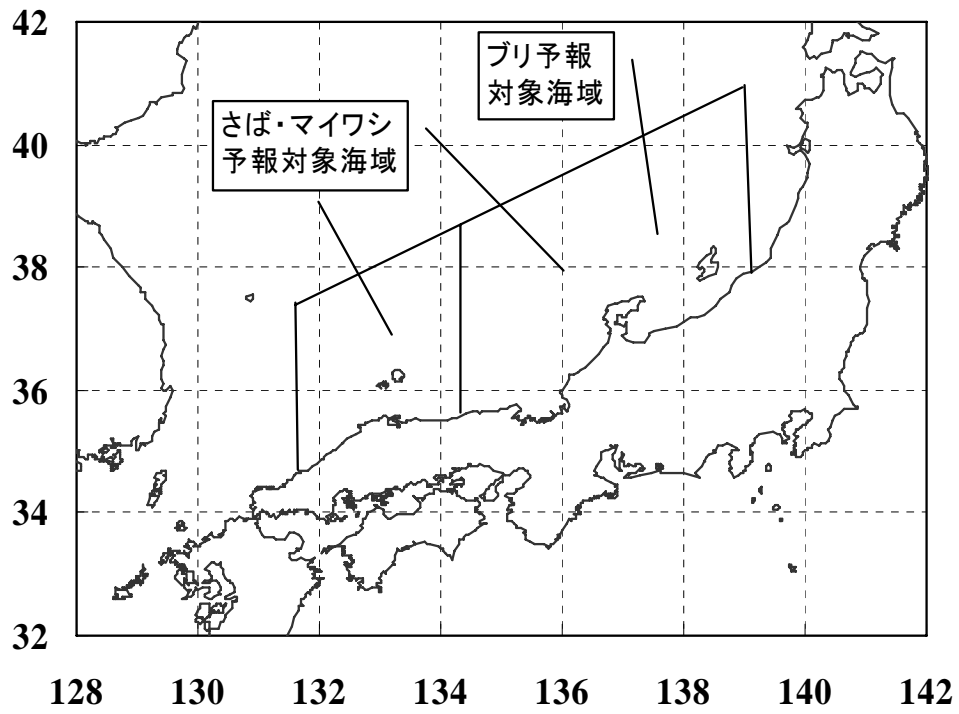
独立行政法人 水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部

電話：025-228-0451、FAX：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先 URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/>



予報対象海域

日本海さば類・マイワシ・ブリ長期漁況予報

今後の見通し（2007年11月～2008年3月）

1. さば類（島根県～新潟県）

日本海西部海域では、1歳魚（2006年級）を主体とした漁獲がみられ、来遊量は前年並みである。中部以北の沿岸域では、前年を下回る来遊となる。

2. マイワシ（島根県～新潟県）

マイワシの来遊は引き続き低調に推移し、漁獲は散発的になる。

3. ブリ（兵庫県～新潟県）

各年級の来遊は以下のとおり予想される。

体長30～45cmの0歳魚（2007年級）：前年を下回る。

体長50～65cmの1歳魚（2006年級）：前年を上回る。

体長70cm以上の2歳魚以上（2005年およびそれ以前の年級）：前年を上回る。

漁況の経過（2007年1～9月）、及び今後の見通し

1. さば類（図1～図2）

●2007年1～9月の経過

日本海で漁獲されるさば類は、東シナ海と日本海の間を回遊する対馬暖流系資源の一部で、その動向は東シナ海域と密接に関わっている。過去5か年（2002～2006年）の日本海主要港（島根県～新潟県）におけるさば類の漁獲量は15,000～25,000トンであったが、2004年以降は増加傾向を示している。

2007年1～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）の水揚量は約15,700トンで、前年同期（9,800トン）を約60%、過去5か年平均（10,600トン）を約48%それぞれ上回った。府県別では、鳥取県および島根県（まき網）が好調で、全域の約7割（11,300トン）を占めた。中部以北におけるまき網漁業（主体は石川県および新潟県）および定置網（兵庫県以北）はともに2005年を下回る月が多かったが、前年と同程度に推移した。

漁獲の主体はマサバの小型魚で、日本海西部（まき網）では、冬から春先にかけて体長 25cm 前後の 1 歳魚（2006 年級）が多く、夏季には 10-15cm の 0 歳魚（2007 年級）の加入および体長 30cm 前後の 2 歳魚（2005 年級）の漁獲がみられた。日本海中部（定置網）では、冬から春先に体長 25cm の 1 歳魚と体長 35cm の 2 歳魚が多く、春から夏にかけて体長 15cm 前後の 0 歳魚（2007 年級）の加入とともに、体長 30cm 前後の 2 歳魚（2005 年級）の漁獲も見られた。

●資源状態と年級の豊度

対馬暖流系におけるマサバの資源量は、1992～1996 年に増加傾向にあったが、1997 年に急減し、1999～2006 年は低い水準にある（平成 19 年度マサバ対馬暖流系群の資源評価より）。加入量は 1995 年以降減少傾向が続き、2002 年級及び 2003 年級は極めて低い水準に止まっているが、2004 年級の豊度は高く、2005 年級は 2004 年級より低い。2006 年級の豊度は 2005 年級と同程度とみられる。2007 年級の評価は難しいが、漁況経過から 2006 年級と同程度かやや高い豊度と予測されている。これらのことから、0 歳魚（2007 年級）は前年並みかやや上回り、1 歳魚（2006 年級）は前年並みで、2 歳魚（2005 年級）は前年を下回り、全体の来遊量は前年並みと考えられる（西海区水産研究所「平成 19 年度第 1 回対馬暖流系アジ・サバ・イワシ長期漁海況予報」より）。

●今後の見通しについて

日本海の漁獲量は、例年、西部海域のまき網の占める割合が大きく、0 歳と 1 歳が漁獲の主体である。1～4 月におけるまき網の漁況が好調に推移したこと、および 2007 年級の豊度が前年並みかやや上回ると考えられることから、西部海域への来遊量は前年並みとみられる。

一方、中部以北海域における漁獲量はここ数年減少傾向にある。まき網漁業の漁獲量は 2001 年の 7,800 トンから 2004 年の 3,400 トンにまで減少した後、2005 年には 5,900 トンに増加したが、2006 年には 4,600 トンに減少した。2007 年の 1～9 月の漁獲量は 3,500 トンで前年同期より若干減少した。定置網の漁獲量は 2001 年以降増加傾向にあ

ったが、2007年1～9月の漁獲量（1,100トン）は好漁の前年同期（2,200トン）の半分に止まった。定置網の漁況が低調であることから、沿岸域の来遊量は前年を下回ると考えられる。

以上のように、西部海域への来遊量が前年並み、中部以北沿岸域への来遊量が前年を下回ると判断されたが、日本海の漁獲量は、西部海域のまき網が主体となっているので、全体への来遊量は前年並みと考えられる。

●海況について

「平成19年度第3回日本海海況予報」（日本海区水産研究所）によれば、2007年10～12月、対馬暖流域の表面水温は「やや高め」、50m深水温は西部で「平年並み」で経過すると予想されており、全般的には漁況に与える影響は少ないと思われる。

2. マイワシ（図3～図4）

●2007年1～9月の経過

日本海におけるマイワシの漁獲量は1990年代に著しく減少したが、2001以降には増加傾向を示している。2007年1～9月における日本海主要港（島根県～新潟県）への水揚量は2,220トンで、前年同期の2,080トンをやや上回り、1～9月における過去5か年平均（1,080トン）に比べると大きく増加したが、その漁獲は依然散発的で低水準にとどまっている。漁獲の内訳は鳥取県のまき網による漁獲量が1,400トンで全体の約63%を占め、他はほとんどが定置網であった。

●資源状態と年級の豊度

マイワシ資源は極めて低位の状態が続いており、2007年級の加入水準も低いと考えられる。

3. ブリ（図5～図6）

●2007年1～9月の経過

2000～2006年における兵庫県～新潟県の主要定置網の漁獲量は4,900～8,500トンで

あった。2007年1～9月における漁獲量は5,260トンであり、前年同期の4,450トンおよび過去5か年（2002～2006年）平均（4,220トン）を大きく上回った。8月と9月の漁獲量は好調の前年を下回ったが、全般的に前年を上回る月が多く、特に冬季（2～4月）の漁況が堅調に推移した。

兵庫県～新潟県における0歳魚の漁況は堅調に推移し、1～9月の漁獲量2,500トンで全体の48%を占め、同期間における前年（2,200トン）および2005年（2,400トン）を上回ったが、2007年級の加入による7～9月の漁獲量は前年より大きく減少した。1歳魚（2006年級）の漁獲量は1,170トンで、同期間における前年および2005年の約970トンを上回った。2歳以上魚（2005年級および2004年以前の年級）の漁獲量は1,600トンで、特に冬季の漁況が好調で、同期間における前年の1,300トンおよび2005年の900トンをはるかに上回った。このように、0歳魚～2歳以上魚までの漁獲量はすべて前年を上回り堅調に推移した。

●資源状態と年級の豊度および今後の見通しについて

ブリの資源水準は1990年代以降安定し、海洋環境もブリの来遊に好適である。6～9月までの0歳魚（2007年級）の漁況が好調の前年および2005年の同期を大きく下回ったことから、2007年級（0歳魚）の資源水準は前年を下回ると考えられる。2006年級（1歳魚）の資源水準は、来遊量指数が前年より高いと判断される上、2007年1～9月における漁模様は前年および2005年を大きく上回ったことから、前年より高いと判断される。2005年級以上（2歳魚以上）の資源水準は来遊量指数および漁模様からは比較的高いと判断される。

●海況について

「平成19年度第3回日本海海況予報」（日本海区水産研究所）によれば、2007年10～12月の対馬暖流域の50m深水温は北部で「やや高め」、また佐渡沖と山陰・若狭沖の冷水域の張り出しはそれぞれ「やや弱い」と「弱い」と予想されている。冷水域の張り出しが弱いと、南下期のブリの接岸が弱く、定置網への入網に不利になると考

えられるので、今後の海況が特に日本海北部沿岸の定置網へのブリ入網に影響する
とがあると考えられる。

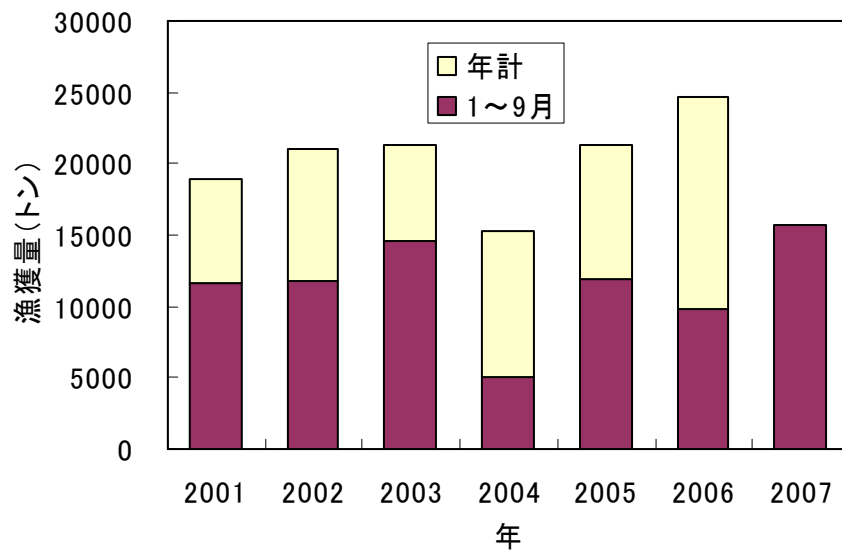


図1 さば類の漁獲量の経年変化(島根県~新潟県、2007年9月まで)

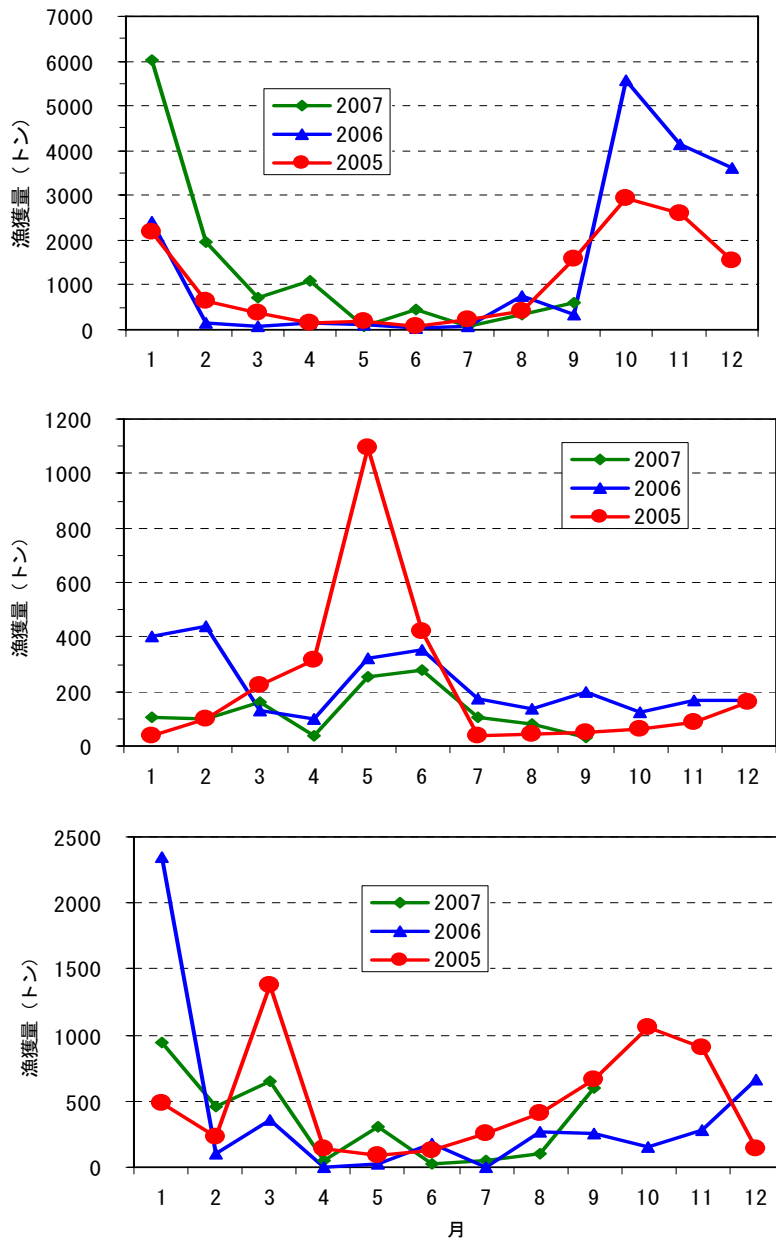


図2 さば類の月別漁獲量の推移 (2005-2007年、2007年9月まで)

上：島根県～鳥取県 (まき網)

中：兵庫県～新潟県 (定置網)

下：兵庫県～新潟県 (まき網：定置網以外を集計)

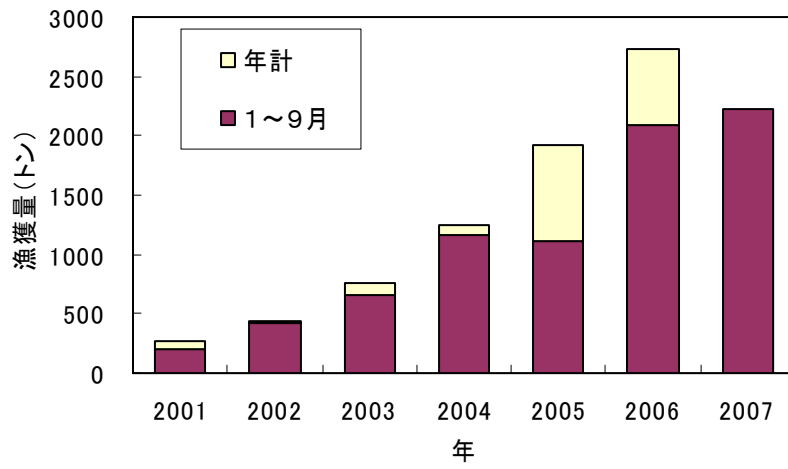


図3 マイワシの漁獲量の経年変化(島根県～新潟県、2007年9月まで)

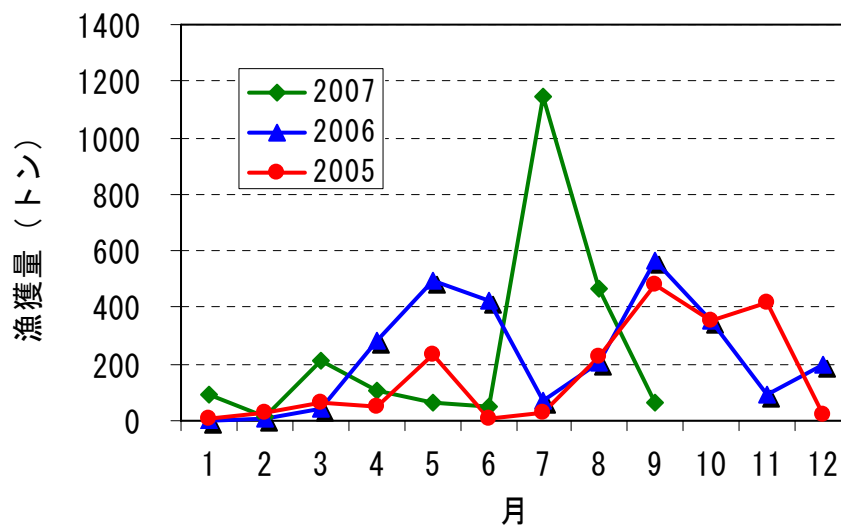


図4 マイワシの月別漁獲量の推移(2005-2007年、2007年9月まで)

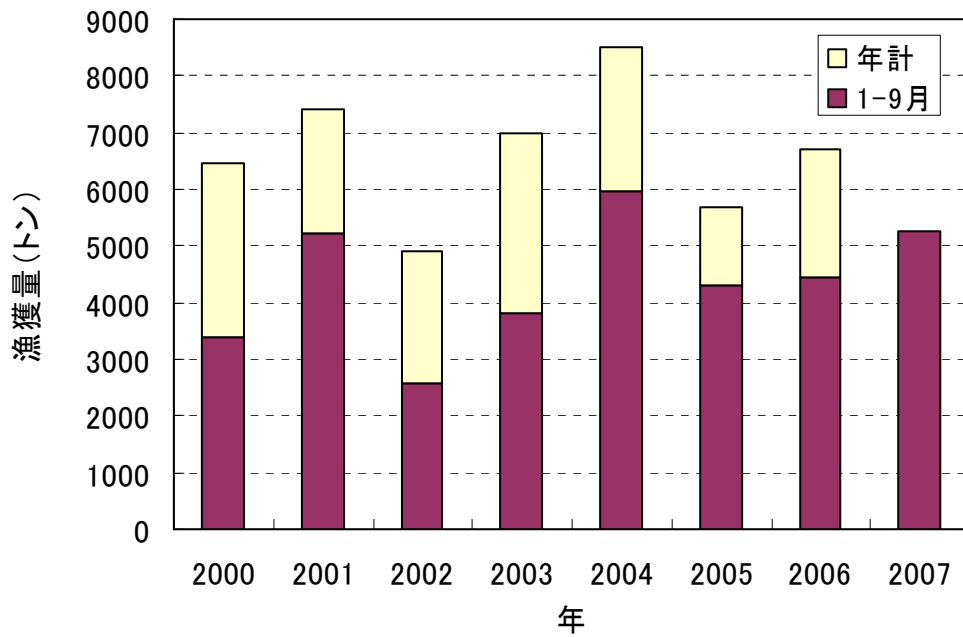


図5 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網漁獲量年変化 (2007年9月まで)

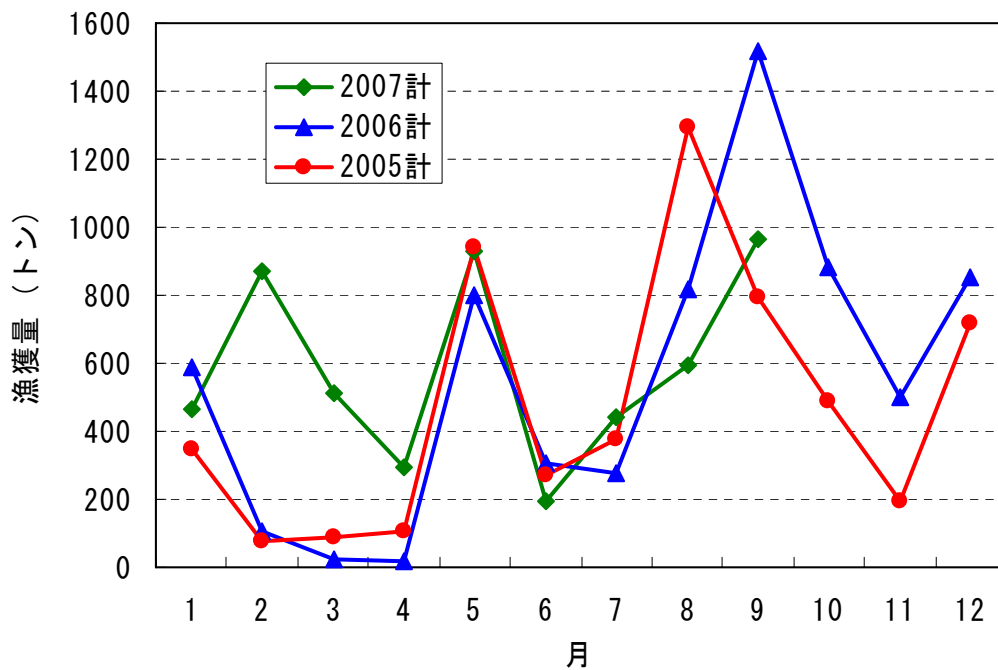


図6 兵庫県～新潟県におけるブリの特定定置網月別漁獲量

(2005-2007年、2007年9月まで)

参 画 機 関

島根県水産技術センター	山形県水産試験場
鳥取県水産試験場	秋田県水産振興センター
兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター	青森県水産総合研究センター
京都府立海洋センター	社団法人 漁業情報サービスセンター
福井県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター 西海区水産研究所 日本海区水産研究所
富山県水産試験場	
新潟県水産海洋研究所	